

子供達と一緒に楽しく体験しよう

寺子屋プログラム

program 20



参考になる
アイデアいっぱい



「お寺で寺子屋をはじめませんか、誰でも簡単にできますよ」と、全国のお寺に呼びかけたくて、自坊で寺子屋を開き、お寺と相性のよい寺子屋プログラムの開発・アレンジを続けてきました。

寺子屋の活動もいつの間にか10年以上が過ぎ、今では「今年は何をやるか？何かよいアイデアはないかな」と、プログラムのネタを探し続けている自分があります。毎年違った寺子屋プログラムが実践できたのは、ひとえに、参加して楽しんでくれる子どもたちのおかげです。こうして寺子屋プログラムが増えた今、まとめをしなればと思い立ち、プログラム集をつくることにいたしました。

紹介する20のプログラムは、特別な知識や技術がなくても、誰もが実践できるプログラムです。当初は住職や寺庭が一人でもできるプログラムを考えてきましたが、だんだんと年数を重ねるなかで、地域の人々を巻き込んだプログラムとなり、いくつかのプログラムでは協力者が必要になってしまいました。これならできそうだったプログラムから始めていただき、(数年やると協力者が現れます)、協力者が必要となるプログラムにチャレンジしていただければと思います。

この時代に寺子屋をはじめるとの意義は、いろいろと語ると思いますが、何よりも子どもたちが「お寺に親しみ、お寺を身近に感じてもらう」ことではないかと思っています。寺子屋のプログラムは、その手助けとなるものです。

寺子屋の活動は、ご本尊さまの前でのお勤めと法話があり、境内や庫裏で一緒にお茶を飲めば、それで充分満足してもらえと思いますが、これらのプログラムを加えていただければ、さらに寺子屋の魅力が増すのではないかと考えています。皆さまの参考の一助となれば幸いです。

宝性院 住職 高岡 邦祐

寺子屋プログラムについて	p02
目次	p03
プログラム01 五感体感ゲーム「箱の中身はなあーに？」	p04_ p05
プログラム02 メンコ大会	p06_ p07
プログラム03 いのちの曼荼羅づくり	p08_ p09
プログラム04 竹箸づくり	p10_ p11
プログラム05 うでわ念珠づくり	p12_ p13
プログラム06 灯籠づくり	p14_ p15
プログラム07 蓮の花 灯籠づくり	p16_ p17
プログラム08 お寺の不思議発見	p18_ p19
プログラム09 俳句づくり	p20_ p21
プログラム10 特大貼り絵仏	p22_ p23
プログラム11 スチレンボードの版画	p24_ p25
プログラム12 砂曼荼羅(サンドアート)づくり	p26_ p27
プログラム13 野菜スタンプの手ぬぐいづくり	p28_ p29
プログラム14 魔法のドリンクづくり	p30_ p31
プログラム15 泥仏づくり	p32_ p33
プログラム16 毛糸で描こう	p34_ p35
プログラム17 オークションゲーム	p36_ p37
プログラム18 お寺を水族館にしよう	p38_ p39
プログラム19 つながるトレードゲーム	p40_ p41
プログラム20 アドベンチャーハイキング	p42_ p43
あとがき	p44

みんなの想像力をひろげる

01

五感体感ゲーム 「箱の中身はなあーに？」

作業時間
30分

視 覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感をつかって、人はものを感じ取っています。五感体感ゲームは、感覚に集中して、ものを感じ取っていくゲームです。五感を研ぎ澄ませると感覚でわかる、その不思議さを味わいました。

用意するもの

段ボール（上から手を入れるように穴をあけ、手前正面を開く）

アイマスク（目かくし）

ポイント

- ◆ 箱の中身を言わないこと
- ◆ 箱の正面に座らせること
- ◆ 箱の中に入れるものを工夫する
 - ・ 手で触るもの
(蚊取り線香、水枕、松ぼっくり)
 - ・ 音を出すもの
(数珠、貯金箱など)



◀ 段ボール箱ひとつでステージが完成

手順

- ① 当てる人を決め、目かくしをする
↓
- ② 箱のふたが開いている面を子どもたち側に向け、箱の中にもものを入れる
(子どもたちに見えるように)
↓
- ③ 目かくしをした子どもを箱の後に誘導し、箱の中に手を入れて何か当ててもらう

-
- ① 箱の向きを変える
ふたが開いている面を指導者に向け、音の出るものを入れる
(子どもたちに見えないように)
↓
 - ② 音を鳴らして何か当ててもらう



▶ 一生懸命だから見ていると面白い

ひと昔前、お寺の境内でも、メンコ、ベーゴマ、けん玉、お手玉など昔遊びが行われていましたので、メンコ大会を復活させました。しかし、昔遊びは、指導（やり方を見せること）と練習を重ねることが必要です。そこでメンコをひっくり返しやすように座布団の上で行い、大会は盛り上がりました。

用意するもの

□メンコ

※インターネットのショップで購入できる

(オリジナルを作る場合は、厚紙、ハサミ、コンパス、色鉛筆を用意)

□座布団



手順

- 1 座布団の上にメンコを並べる
(初心者にはやりやすい)
- ↓
- 2 順番にメンコをうち、
ひっくり返った数を競い合う
- ↓
- 3 メンコの返し方になれてきたら、
対戦を行う



▲まずは自分のオリジナルメンコをつくる

ポイント

◆オリジナルのメンコは厚紙で少し大きめのサイズで作成すれば、返しやすくなる

◆事前にメンコを投げる位置など、メンコの返し方をみせる



たくさん
返したいな～



いのちの曼荼羅づくり

作業時間
1時間

まず“いのち”という言葉から連想するものをみんなで考え、“いのち”への想像力を膨らませました。次に今の自分の“いのち”の色を円形の厚紙に自由に描いてもらい、それらを一つの円として展示しました。“いのち”はいろいろなものとつながっていて、それぞれ輝いているのですね。

用意するもの

- 厚紙
- コンパス
- ハサミ
- 絵の具、色鉛筆
- 模造紙、カラー模造紙（黒）
- ハサミ
- 新聞紙
- バケツ

ポイント

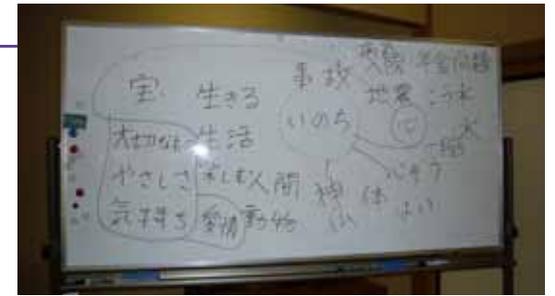
◆子どもたちが連想した言葉をつなげていく時に、指導者が感想を述べ、子どもたちに意見を聞きながら、いのちのつながりを意識させる

◆いのちの色は十人十色、それぞれが美しく、輝いていることを伝える

◆絵の具に蓄光塗料を使うと暗くすると光り、いのちの曼荼羅がより輝きます

手順

- 1 厚紙にコンパスで円を描き、ハサミで丸型を切っておく
- 2 白板（模造紙）の中心に、「いのち」という言葉を書く
- 3 「いのち」から連想する言葉を、子どもたちに出してもらい
※「いのちは〇〇である」の〇〇に入る言葉を考えてもらう
- 4 出された言葉を白板（模造紙）に書き留めて、関連する言葉を線でつなげていき、「いのちのツリー」をつくる
- 5 丸型の厚紙をくばり、自分のいのちは今どんな色をしているのかを想像してもらい
- 6 自分がイメージしたいいのちの色を絵の具や色鉛筆で塗る
- 7 黒色の模造紙に子どもたちが塗った丸型を貼り付けて、いのちの曼荼羅を完成させる
- 8 いのちの曼荼羅を見ながら感想を出しあう



▲いのちを中心に子どもたちが連想した言葉をつなげました



▲自分の今の気持ちから自分のいのちの色を塗っていきます

出来上がり！

▶ 皆のいのちを集めていのちの曼荼羅が完成 おもわず「オオ！」と歓声があがりました



竹箸づくり

作業時間
1時間

竹筒を割り棒状にしたものを、さらに、カッターで箸状に削っていき、最後にヤスリをかけて竹箸をつくりました。自分で竹を削り、紙やすりで磨いてピカピカした箸は愛着がわき、何年も大事に使えます。毎日の食事でも一層おいしく感じられます。

用意するもの

- 青竹 ※筒状からあらかじめ割っておくとよい
- カッター ※スカッターという安全ナイフを使用するとよい
- 紙やすり (粗いもの 細かいもの数種類)
- ビニールシート ※竹の削りくずがでるため



ポイント

◆手を傷つけずに削ることができる「スカッター」という安全ナイフを使用する

◆紙やすりの種類をいくつか用意して、粗いものから細かいものへと順番に使っていくことで、竹箸はつるつるになる。

手順

- 1 青竹を20センチ程度に切り、割って棒状の竹を用意する
- ↓
- 2 カッターで先を細く削っていき、箸の大きさまで削る
- ↓
- 3 粗目の紙やすりをかけて、形を整えていく
- ↓
- 4 細目の紙やすりをかけて、つやを出して仕上げしていく



▲隣同士ぶつからないように、同じ方向を向いて竹を削っていきます



▼カッターの使い方もしだいに慣れていきます



色 とりどりの念珠の珠から、好きな色の珠を選んで自分だけのオリジナルのうでわ念珠をつくりました。出来上がったうでわ念珠に願い事を書いた紙を結びつけて、ご本尊さまにお供えしてお経をお唱えすれば、うでわ念珠が特別なものになります。

用意するもの

うでわ念珠の材料

※小玉、ボサ珠、親玉、紐のセットを念珠店で購入

ハサミ

荷札 ※願い事を書く紙として

念珠の珠の受け皿

ポイント

◆あらかじめ子どもの手首の太さにあったうでわ念珠のサンプルをつくっておく
珠の数およそ16個～22個

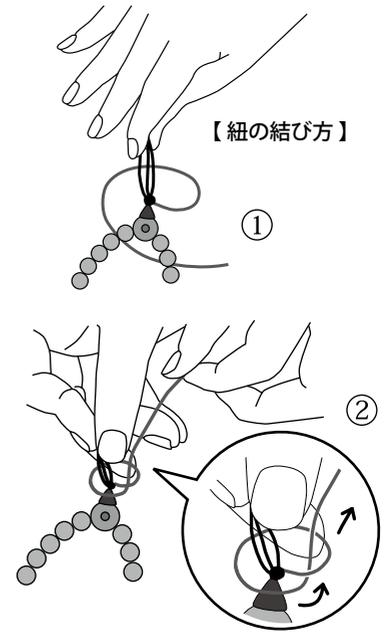
◆小玉を選びやすいように場所を確保する



何色にしようかな

手順

- ① 片方の紐の先をかるく結んで、ボサ玉、親玉の順に通す
- ↓
- ② 小玉(色つきの玉)を選んで順番に通していく
- ↓
- ③ 小玉を通し終えたら、結んでいない紐の先を親玉、ボサ玉の順に通す
- ↓
- ④ 通し終えた紐の先を結ぶ〈右図参照〉
- ↓
- ⑤ 願い事と名前を書いた紙(荷札)を念珠に結び、ご本尊さまの前にお供えして、お経を唱える



◀ いろいろな色から好きな色を選べるのが楽しい

出来上がり



板 やペットボトルで灯籠の枠をつくり、和紙に写仏を描き、切り絵を貼り、願い事を書いて灯籠の四面に貼り付けました。献灯式を行って、自作の灯籠をご本尊さまにお供えすると、灯籠の明かりがより一層輝きます。

用意するもの

- 板
- 棒・4本 ※板で作る場合
- カッター ※板で作る場合
- 錐 ※板で作る場合
- 瓶のフタ=オウカン ※板で作る場合
- ペットボトル
- 釘
- カナヅチ
- 和紙 (写仏用紙、障子紙)
- 色鉛筆、絵の具

ポイント

- ◆ 灯籠はあらかじめ作成しておく
- ◆ 写仏や切り絵の材料や描き方は、数多くの本が出版されているので、あらかじめ調べて、入手しておく
- ◆ 子どもたちがご本尊さまに灯籠をお供えする献灯式は、堂内を暗くすると、荘厳な雰囲気になる
- ◆ 安全のためローソクは燃えつくす前に消すこと

手順

【板の例】

- ① 正方形の四角の板を用意し、中心にオウカンを置いて、下から釘をさしてローソク受けをつくる
- ↓
- ② 錐で四方の角に穴をあけ、棒を削っている



▲色紙で切り絵をして和紙に貼り付けます



出来上がり

◀ 灯籠を並べると雰囲気が増します

【ペットボトルの例】

- ① 1～2リットルのペットボトルを用意し、底の部分から半分ほど切る
- ↓
- ② 安全のため、ペットボトルの切り口にビニールテープを貼る
- ↓
- ③ 板を下において、ペットボトルのキャップ側を中心に置いて、下から釘をさしてローソク受けをつくる
- ↓
- ④ 和紙に写仏を描き、願い事を書く切り絵を貼ってもよい
- ↓
- ⑤ 灯籠の周りに写仏を貼り付け、ローソクを立てる



▲ 写仏を灯籠に貼り付けます

出来上がり



韓紙という韓国産の薄い紙の先をよじって蓮の花びらをつくり、一枚一枚をプラスチックのコップに貼り付けていき、蓮の花のつぼみをつくりま
す。 コップの中に、百円ショップで売っているイルミネーションライトを入
れると、蓮の花がより美しく輝きます。

用意するもの

韓紙 (薄紙の束)

※韓国の仏壇店で売っているが、日本では入手困難

インターネットで「韓紙 蓮」と検索して探してみてください

プラスチックのコップ

イルミネーションライト※百円ショップで入手可

ノリ



ポイント

◆自由に色を組み合わせられるように、韓紙は何色か用意する

◆蓮の花びらを貼る時にノリで手がべとつくのを防ぐには、コップの周囲にあらかじめ両面テープを貼っておくとよい

◆コップの両端に針金を通して取っ手を付ければ、吊るして飾ることもできる

手順

① 束になっている韓紙を一枚一枚はがし、先をよじってノリで固め蓮の花びらをつくる



② 花びらをプラスチックのコップの周囲に上から貼っていく。三段から四段重ねに貼って、蓮の花のつぼみを整えていく



③ イルミネーションライトをコップの中に入れて、灯りをともし



▲一枚一枚ていねいに貼り付けていきます



出来上がり

◀小学生が短時間でつくったと思えない出来栄

お寺の不思議発見

作業時間
1時間

お寺は一般の家にはない、不思議なものであふれています。境内や堂内にある不思議なもの(彫刻、石仏、文字、記号)などを問題にして、それらを探し出すゲームを行い、見つけたものの意味について考えました。

用意するもの

問題用紙 ※お寺の不思議なものを写真に載せて作成する

筆記用具



ポイント

◆あらかじめ、子どもたちが何だろうと思うものを探しておいて、問題を作成する

◆不思議なものには、それぞれ意味があることを伝える

手順

- ① グループをつくり(4~6人)、問題用紙を配布する
- ↓
- ② 問題に出されているお寺の不思議なもの(彫刻、石仏、文字、記号)などを時間内に探してもらう
- ↓
- ③ 子どもたちから不思議なものの意味を聞き、関連したお話し(法話)をする



▲ やっとみつけた青面金剛動物はサル?



▶ 見つけたものを話し合っているうちになかよしく

俳句づくり

作業時間
1時間30分

お寺の境内を散策しながら、お寺の歴史、仏さま、花や木について説明を聞き、俳句をつくってもらいました。短冊に書かれた見事な俳句は、本堂に並べて保護者の方に見てもらいました。

用意するもの

- 厚紙を切ってつくった短冊
※ 雰囲気を出すため、ふちを金色に塗る
- 筆ペン
- ノートと筆記用具

ポイント

◆低学年には俳句(5,7,5)が難しいので、子どもの俳句の例文をいくつか用意する。※下の句を穴あきにして、何の言葉が入るのか考えてもらうなど導入を行う

◆説明をメモするため、ノートと筆記用具をもたせる



手順

- ① 境内でお寺の歴史、仏さま、花や木について説明する
- ↓
- ② 厚紙を切ってつくった短冊を渡し、思い思いの場所で俳句を考えてもらう
- ↓
- ③ 庫裏(室内)で俳句の発表会を行う
- ↓
- ④ 本堂に並べて保護者に見てもらおう

出来上がり



▲小学生の俳句をいくつか紹介して、感じをつかみます



▲お堂にまつられている仏さまを紹介します



▲お寺の歴史や草花について紹介します

【子どもたちが詠んだ俳句】

朝顔の 朝のめざめは 美人かな	松の木は とっても長い 僕とちがう	六地藏 次はどの世に ゆくのやら
-----------------------	-------------------------	------------------------



プログラム

仏さまを飾るように みんなで貼り絵を

10

特大貼り絵仏

作業時間

1時間

仏さまの切り絵を拡大コピーし、色紙や包装紙をちぎって、仏さまの衣や身につけている物、持ち物に貼り絵をして色をつけてもらいました。きれいに飾られた仏さまを一同に並べると迫力満点。仏さまの名前も覚えました。

用意するもの

仏さまの切り絵や仏画 拡大コピー

包装紙、色紙

ノリ

大きいな～



◀ お菓子の包装紙などをとっておいて使います

手順

- ① グループ(4～6人)に 仏さまの絵一枚と色紙を配る
↓
- ② 色紙をちぎって仏さまに貼り付けていく
↓
- ③ 出来上がったら仏さまの説明をする



▲ みんなで協力して作り上げていきます

ポイント

◆ 拡大コピーは高いので、一度、絵をスキャナーで取り込んで、A4に分割して印刷し、貼り合わせて大きくするとよい

◆ 仏さまの絵は半畳くらいの大きさに拡大すると迫力が出て、作業もしやすいただし、その分、貼り絵に時間がかかる

◆ あまり長時間やると、あきてくる子が出てくるので、30～40分で終わるようにする



▲ 仏さまの名前を書きます

仏さまと一緒に
「はい、チーズ」

出来上がり



11

スチレンボードの版画

作業時間
1時間

鉛筆やボールペンでスチレンボードに絵を描き、インクをのせれば簡単に版画が完成します。大きな紙の中心に仏さまを描き、その周りを囲むように、「花」「動物」「道具」などそれぞれが作った版画を押して仏さまにお供えしました。

用意するもの

- スチレンボード
- 版画用インク
- プラスチックトレイ（インク用）
- ローラー（インク用）
- 版画用和紙または画用紙
- 新聞紙

ポイント

- ◆スチレンボードは軽いので、インクをのせたら持ち運びに注意する
色を載せた隣のテーブルに版画用紙を用意するなど工夫をする
- ◆刷り上がったときの絵は左右反転することを伝える
- ◆水性インクを使用するので、エプロンの着用、手洗い場所など汚れ対策が必要



何をお供えしようかな

手順

- ① テーブルに新聞紙を敷いて、トレーにインクを置く
↓
- ② スチレンボードに絵を描く
(筆記用具で線を付けて彫る感じで)
↓
- ③ ローラーを使ってスチレンボードにインクをのせる
↓
- ④ 大型の紙にスタンプするように版画を置く



ローラーやトレイは百元ショップで売っています



みんなの気持ちがお供えされました

出来上がり

仏さまと一緒に「はい、チーズ」



プログラム

万華鏡のような仕上がりが楽しめる

12

砂曼茶羅 (サンドアート)づくり

作業時間
1時間

色 づけされた砂を落として模様をつくりました。砂を定着させるためにラベルシールを使います。あらかじめラベルシールの表面に図形を描き、カッターで表面のみ切れ目を入れておきます。カッターの切れ目を少しずつはがし、砂を落として砂絵を完成させます。皆の砂絵をつなげて、美しい砂曼茶羅を完成させました。

用意するもの

- 色つき砂 (※ホームセンターなどで入手可)
- 砂を置く台紙 (ラベルシール)
- プラスチック皿 ※砂を入れる皿
- 新聞紙

ポイント

◆『塗り絵曼茶羅』などの本から幾何学模様を用意する



手順

- 1 幾何学模様をラベルシールにコピーし、カッターで表面のみ切れ目を入れて配る
- ↓
- 2 模様のノリの部分に少しずつ砂を落としていく
- ↓
- 3 出来上がった個々の砂絵をつなげてオリジナルの砂曼茶羅を完成させる



▲砂を落としていく感覚が楽しい



きれいに出来てきた

◀次第に出来がっていく砂絵

出来上がり



▶ みんなの砂絵をつなげて美しい曼茶羅を完成させました

野菜スタンプの 手ぬぐいづくり

作業時間
30分

手ぬぐいに、いろんな野菜の切り口をスタンプして、オリジナルデザインの手ぬぐいをつくりました。また、油性マジックで写仏をして、仏さまを描いてもらい、写仏と手ぬぐいづくりを合わせて楽しみました。

用意するもの

- 無地の手ぬぐい さらしを切ってもよい
- 野菜(レンコン、ズッキーニ、オクラ、ピーマン、タマネギなど)
- アクリル絵の具
- 油性マジック
- プラスチックトレイ (絵の具用)
- スポンジ (野菜に色を載せるため)
- バケツ
- 新聞紙



手順

- ① あらかじめ、野菜を縦や横に切って野菜スタンプをつくっておく
- ↓
- ② 写仏をする場合は、まず布地に写仏をする
- ↓
- ③ テーブルに新聞紙を敷き、アクリル絵具と水を混ぜてスポンジに含ませる
- ↓
- ④ 手ぬぐいに野菜スタンプを押して、広げたままよく乾かす



ポイント

- ◆ 野菜の切り口がおもしろい模様になるように切る
- ◆ 絵の具の濃さを調整する
- ◆ 手ぬぐいを広げて乾かす場所を確保しておく
- ◆ スタンプとして使用した野菜は埋めて土に還し、残った野菜は料理に使用するなど、「食材を無駄にしない」ことを子どもたちに伝える



出来上がり

◆ オリジナルの手ぬぐいの完成です

魔法のドリンクづくり

作業時間
30分

インクジェットのプリンターのインク、マゼンダ(赤)、シアン(青)、イエロー(黄)を少しずつ水に混ぜ合わせるだけで、さまざまな色が出来上がります。混ぜ加減の微妙な違いで、ひとつとして同じ色が出来ません。夢をかなえる魔法のドリンクづくりという設定にして、新しい飲物を考えてもらいました。

用意するもの

- インクジェットプリンターのインク
- スポイト
- お皿 (インク用)
- プラスチックコップ
- 割りばし (インクを混ぜるため)
- バケツ
- 新聞紙



混ぜすぎだよ〜

手順

- ① テーブルに新聞紙を敷き、お皿にマゼンダ(赤)、シアン(青)、イエロー(黄)のインクを入れて用意する
↓
- ② コップに水を入れて、スポイトでインクをコップに少しずつ落としていく
↓
- ③ インクを混ぜ合わせながら、好みの色をつくる



ポイント

- ◆インクはスポイトで一滴ずつ落とし、薄い色で混ぜ合わせること
- ◆何のドリンクをつくるかを考えながら行い、出来上がったら発表をする
- ◆インクジェットインクはキラキラときれいなので、太陽の光のもとで一同に並べて置くと輝いて見える

出来上がり



▶ 本堂の前に円形に並べてみました

プログラム

素焼き風のお地藏さまが簡単にできる

15

泥仏づくり

作業時間
1時間

粘土でお地藏さまをつくりました。『もくねんさん』という粘土をつかうと、乾燥後に素焼きのように仕上がります。出来上がったお地藏さまを境内にある六地藏の前に並べて、お祈りをしました。

用意するもの

粘土 ※『もくねんさん』など、さまざまな種類がある

ヘラと竹ぐし

水

ビニールシート



手順

- ① あらかじめ、お地藏さんのイラストを数点用意し、顔の表情や姿などイメージを膨らませる
- ↓
- ② ビニールシートを敷き、その上で粘土を練り、ヘラで形を整え、竹ぐしで顔をかいて完成させる
- ↓
- ③ 乾かす場所に移動させ、固まるまでさわらないようにする

ポイント

◆粘土の特性を説明する
固くなったら水を含ませるなど

◆お地藏さまは子どもたちが大好き、困った時に助けてくれるなどのお話をする

出来上がり

わたしたちのお地藏さん
かわいいでしょう

▼いろいろな表情のお地藏さんが完成



プログラム

誰でもピカソになれます

16

毛糸で描こう

作業時間
30分

ひと筆書きのように、毛糸を畳に置いていって絵を描きました。二人一組で向き合い、相手の顔を描いてもらいました。不思議とどこか似ている顔が次々と描かれていき、お寺の庫裏の畳がキャンバスになりました。

用意するもの

- 毛糸玉 5メートルほどを数色用意

ポイント

- ◆上手く描けないが、感覚的に描けるところが、ヘタウマを創り出す
上手下手は問わない
- ◆似顔絵だけではなく、お寺の畳を使ってさまざまな絵が描ける

顔よくみせて



手順

- 1 二人一組で向き合い、お互いの顔をよく見つめ合う
- 2 毛糸をひと筆書きのように落としていき、畳に顔を描いていく
- 3 指で広げたり、縮めたりしながら、調整して顔を完成させる



▲毛糸一本で描いたと思えない出来栄え



▶余った糸で体も描いた



出来上がり



◀微調整も可能です

オークションゲーム

作業時間
1時間

グループをつくり、架空のお金を使って、オークションとして出てくるもの（例「海」「レジャーランド」「お米」「病院」「学校」「自由」など）を競り落として、自分たちの国をつくってもらいました。欲しいものが競合すると、どんどん値上がりしていくので、自然と盛り上がります。

用意するもの

- オークション出品リスト
- オークションに出品のイラスト
- 架空のお金
- オークション合図用の鐘（りん）



ポイント

◆低学年にはゲームの手順が少し難しいかもしれないが、子どもたちが本当に欲しいものを話し合うことが大切

◆グループ発表を行い、子どもたちが何故、それが欲しかったのか理由を聞く

手順

- ① グループ(3~6人)にわけ、オークションに出される出品リストを渡す
- ↓
- ② グループに架空のお金（例えば100テラ）を渡す
- ↓
- ③ グループで話し合い、何を買うか、優先順位を相談しておく
- ↓
- ④ 出品のイラストをかかげて、オークションを行う
- ↓
- ⑤ グループが競り落としたものから、自分たちの国はどんな国か、アピールポイントを話し合い、発表する



▲手をあげて、自分たちが買う値段をいって、競り落とします



▲グループのなかで買いたいものを話し合う



▶どんな国なのかを発表します。「海」「温泉」「平和」だけを手に入れたグループ

お寺を水族館にしよう

作業時間
1時間30分

も しもお寺が水族館だったら、「大きな水槽があって、自由に魚たちが泳いでいる」そんな光景をつくり出すために、海の生き物の姿を光るビニールシートや包装紙に描き、ハサミで切り取りました。切り取られた海の生き物を、境内に吊るしたロープに取り付けると、見事な水族館がオープンしました。

用意するもの

包装紙 色紙

光沢のあるビニールシート

ハサミ

鉛筆、マジック

ロープ

PPバンド

ホチキス



手順

- ① 図鑑などを見ながら、海の生き物を包装紙やビニールに描いてもらう
- ↓
- ② 描いたものをハサミで切る
- ↓
- ③ 境内にロープを張り、ロープにPPバンドを取り付けてたらす
- ↓
- ④ PPバンドに海の生き物たちをホチキスで留めていく



▲ どんどんと魚が生まれ出されます

ポイント

◆ 図書館で海の生き物の図鑑を借りておき、図鑑を参考にしてマンボウ、ウミガメ、シャチ、イルカ、いろいろな魚がつかれるようにする

◆ 高いところにも吊るせるように、脚立を用意して、貼り付ける役(保護者)を決めておく



▶ 風をうけてゆらゆらと泳ぐ魚たち



つながるトレードゲーム

作業時間
2時間

子どもたちがつくったうでわ念珠を、あらかじめご協力をお願いした地域の方と物々交換をしました。子どもたちが各家を訪ね歩き、「おたくのお宝は何ですか」と質問をして、お話を伺った後で、交換しました。聴いてきたお宝の話と、交換してきた品物を発表して盛り上がりました。

用意するもの

- うでわ念珠（作成のための材料）※P12～13参照
- 協力してくれる家が印された地図
- 筆記用具
- ノート



手順

- ① うでわ念珠をつくる（※P12～13参照）
↓
- ② グループ（6人程）をつくり、地図や目印をたよりに物々交換ができる家を探し、訪問する
↓
- ③ 訪問者宅にて質問「家のお宝は何ですか」と質問して、品物の交換を行う
↓
- ④ お寺に戻り、発表会を行う



◀ さあ、出発！
家のお宝は？に、
自然と熱弁になる
地域の人たち



ポイント

◆あらかじめ、物々交換をしてくれる協力者（家）をお願いして、ゲームの流れや交換品はどんなものがよいかなどの事前説明を行う

◆お寺から外に出ていくため、各グループに引率者（父兄、学生）を付け、危険な場所について事前にチェックをする

◆各家の訪問滞在時間を定め、全グループが定めた時間に返って来られるようにする

▶ 手作りのひょうたん水筒と交換して大喜びの子どもたち



アドベンチャー ハイキング

作業時間
2時間

歴史について楽しく学ぶゲームを行いました。町のマスコットキャラクターである“すぎびょん”と“すぎたろう”が登場するオリジナルの寸劇を観てもらい、「杉戸町の歴史を調べてくる」と、謎の数字のカードを落としていった“すぎたろう”を追いかけて、町の史跡を訪ね歩き、数字の意味（杉戸町の歴史と関係する）を解き明かしました。

用意するもの

- マスコットキャラクター ※町に申請をして借りる
- 史跡ポイントの地図
- 数字が書かれたカード
- 筆記用具



手順

- ① 寸劇を観る
↓
- ② グループ（6人程）をつくり、史跡を訪ね、数字に関する杉戸町の歴史を聞く
※各史跡には杉戸町の歴史を説明してくれる杉戸宿案内人を配置する
↓
- ③ お寺に戻り、発表会を行う

ポイント

- ◆寸劇のシナリオを作成し、寸劇のリハーサルを行う
- ◆町の歴史に関する数字の問題をつくり、史跡の場で説明してくれる協力者を確保する
- ◆お寺から外に出ていくため、各グループに引率者（父兄、学生）を付け、危険な場所について事前にチェックをする



▲ マスコットキャラクターの登場で自然と物語のなかに入り込む子どもたち



▶ その年に町で起こった出来事を話す杉戸宿案内人さん 子どもたちが持っている数字のカードと関係しているの、真剣にメモをする

あとがき

寺子屋プログラムは、子どもたちが知り合いになり、同じ体験を共有することをめざし、プログラムで共有した気持ちをご本尊さまにふりむけることを意識して行ってきました。そのためプログラムの後には必ず“お勤め”を行っています。



本冊子で取り上げた寺子屋プログラムは、私自身がこれまで出会い、学んだ先生方の実践を参考にさせていただきました。篤く御礼申し上げます。

今後も、寺子屋の活動の輪を広げていきたいと思っています。プログラムのことで詳しくお知りになりたい方は、どうぞ気兼ねなくお尋ねください。

高岡 邦祐 (たかおか・ほうゆう) 略歴

埼玉県杉戸町生まれ

大正大学大学院文学部史学科修士課程修了

財団法人全国青少年教化協議会 勤務 (昭和63年～平成13年)

真言宗智山派 智山教化センター 所員 (平成13年～平成29年)

真言宗智山派 宝性院住職

寺子屋プログラム20

平成29年3月21日発行

執筆者 高岡 邦祐

編集デザイン 高岡 理恵子

発行・連絡先 宝性院

〒345-0036

埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸1-5-6

TEL 0480-32-0342

